

第1回苧田町総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和2年1月24日(金)
開会 13:00 閉会 14:00
- 2 場 所 苧田町役場4階401会議室
- 3 出席者 苧田町長 遠田 孝一
苧田町教育委員会
教育委員 井上 三津子
教育委員 石邊 節雄
教育委員 塩田 弘樹
教育委員 原田 真喜子
教育長 森田 耕治
事務局関係
教育総務課長 吉永 康彦
生涯学習課長 種生 純子
教育総務課次長 和才 輝俊
生涯学習課副課長 守 秀典
教育総務課庶務担当係長 崎平 美加
財政課長 藤原 昌彰

4 協議・調整事項

- (1) 令和2年度予算編成方針等について
(2) その他

5 議事の概要

◇開会

崎平係長

それでは、ただいまから平成31年度第1回総合教育会議を始めさせていただきます。進行につきましては、事務局で行いたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

それでは、お手元の次第に従いまして、はじめに遠田町長よりご挨拶をお願いいたします。

◇あいさつ

遠田町長

今日は、総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。いろんな意見を交換する場を教育委員さんと持たなければいけないと思っておりますが、なかなか機会が少なくて申し訳ないと思っております。

今日は、令和2年度の予算についてが、主な議題と承知しておりますが、その他にも、せつかくの機会ですから皆さんのご意見を聞かせていただければと思っております。今日はどうぞよろしく願いいたします。

崎平係長

続きまして、教育委員会を代表いたしまして、森田教育長にご挨拶をお願いいたします。

森田教育長

本日の会議におきましては、町長と教育委員会が意思の疎通を図りながら、一層民意が教育行政に反映されるようになっていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

◇協議・調整事項

崎平係長

それでは、本日の議題となっております令和2年度予算編成方針等について、遠田町長よりご説明をよろしく願いいたします。

(1) 令和2年度予算編成方針について

遠田町長

私が町長になって2年が経過し、来年度の予算編成で3回目になります。

教育の関係で言いますと、1年目で学校にエアコンをつけようということが、大きな目玉だったと思います。2年目は、1年目に更新の要望が出ていましたが、エアコンを優先しましたので、小中学校のパソコンを一斉に取り換えることを進めてきたと記憶しております。

令和2年度の予算では、今まさに予算編成中で、午前中も審議を行ったのですが、31年度予算に比べると2億円くらい上回る程度の予算にしないと予算編成ができないようとなっております。

ご存じだと思いますが、会計年度任用職員という制度になりまして、人件費が非常に大きく伸びることになりました。臨時職員で働いておられる方々にボーナスの支給等が必要となり、約1億3～4千万円の人件費の増になると思います。

それから、障がい者、高齢者、子育て関係の予算が毎年大きく増えております。また、施設の老朽化に伴う修繕、加えて防災、毎年大きな災害が起こっており、議会か

らも強く要望を受け、防災対策、減災対策として何を行うのか、一度には出来ませんので、毎年少しづつ予算を膨らませていくことが必要かと思っています。

また、働く人の確保と言いますか、働く人の処遇を良くしないと来ていただけないような社会の環境になって参りました。特に顕著なのが、皆さんご存じと思いますが、給食センターが、慢性的に人が少ないという状況が続いて、教育部局として大変ご苦労されているところだと思います。人を集めるためには、働く環境を整えたり、賃金を上げたりして、出来るだけたくさんの人に来ていただき、安定的においしい給食を提供するというを守るとは、必要なことだと思っております。

このように必要なものだけでなく、町を元気にする事業にも投資しないとイケないと思っています。そういう意味において、お金がたくさんいるということが目白押しで、教育委員会、議会の皆さんにもご理解をいただく必要があるのではないかと思います。

今日は、いろいろなご質問があろうかと思いますが、率直にお答えして行きたいと思っています。

私が町長になった時に、町がたくさん事業を行って行っていました。たくさん事業を行って財政が厳しくなってきたのではないかと思いますので、プロジェクトチームを作り、事業評価をしましたが、やらなくて良いという事業がほとんどない状況というのが実態で、そういうことが良くわかりました。

もう一つは、新しい大きな事業を行う場合には、町長が独断で決めるのではなく、仕組みを作り、皆で議論をし、これは必要だということで事業を始めるという制度も行って参りました。新規事業を行う時には、ヒアリングのメニューに載せていただいて新しい事業を始めるということ、役場の中で仕組み、制度として取り入れ、2年間を過ごしてきました。

教育の予算で言いますと、ALT、図書費の復元という要望は伺っていますが、来年度の予算としましては、今のところ現状維持で考えています。

また、外国人の方が増えてきて、外国人の子ども達が学校に通学する時の対応をどうするのかということも含めて考えなければならない時代となっておりますので、いろんな所でお金がたくさん必要ということになりました。

簡単に言いますと、予算編成については、大きくお金が必要な所がありますので、平成26年以降に行財政改革として予算を削ってきた所を膨らませて、元に戻すということは出来ていないというのが実態であります。

長くなりましたが、ご質問がありましたらお答えさせていただきたいと思っております。

崎平係長

ただ今の町長よりの説明につきまして、何かご意見ご質問等がありましたら委員さんの方からお願いしたいと思っております。

遠田町長

続けて良いですか。

崎平係長

どうぞ。

遠田町長

教育の予算というのは、前町長の時代にたくさん予算を投下した時期がありました。当時で15～6億くらい使っており、今では10億くらいだと思いますが、数字は覚えていないのですが、総予算に占める教育費の割合では、11%くらいが今は10%くらいに、端数は切捨てておりますがなっていると思います。

前町長の時代に、教育に対し大きく予算を投下し、少人数学級、34人以下の少人数学級で先生が余分に必要で、その人件費が大きくお金がかかった要因の一つだと思っております。長い期間その投下してきた予算に対し、成果がどこかに表れていたら良いのですが、少なくとも学力の向上という面では、成果と言いますか、教育の効果が出てないと思っております。ただ一方で、学校、学級が荒れた時期があったと聞いておりますが、今は非常に落ち着いてきたというのは、学校関係者の皆さんのご努力によって生まれたものと思っております。

私は、これから先、教育に予算を大きく投下するとしたら、子ども達の学力を上げることに必要ならば大きな予算を投下する。学力を上げるためには何が必要かというところ、やはり先生達の資質向上、先生達の技術、技量の向上のために、こんなことを行いたい等の提案をしていただき、効果が見込めると思われるものに対しては、予算を投下するということが必要と思っております。以上です。

崎平係長

それでは委員の皆様から、ご意見等せっかくの機会ですのでよろしく申し上げます。

森田教育長

私の方から良いですか。

「町を元気に」という目標がありますが、学校が魅力的な学校になるということが、町が元気になることの一つに繋がるのではないかと思います。今までALTを数多く配置してきて、1年生から英語が学べるとか、外国人に接するとかが大きな魅力でもあるし、そういうことが町の元気にも繋がると思いますが、お考えについてお願いしたいと思います。

石邊委員

私も続けて言わせてもらいますが、ALTに対して、先程現状維持で行いたいという話をしていましたが、それ自体が国の方針とか、教育の方針とかと全く離れたものになっていると思います。

また、学校の先生の技量を上げなければいけないと言われていましたが、技量が足りないのは英語なのです。ALTと一緒に居て、教員の資質も上がるのですよ、カタカナの英語を読んでも教員の技量は上がりませんよ。

これから国際社会と言っていて、国の方針、教育の方針はありますが、教育予算はそのまま据え置き、職員の給料、待遇をと言われていたが、職員のことばかりで町民の方を向いた話が出てこない。誰の税金ですか。町民に還元するのを決めるのが役場であって議会です。それを全く返さず、自分達の給料を上げるための話しか聞こえてこないのです。あなた達のために税金を払っている訳ではありませんよ。

給食センターでも一緒、賃金を上げたからといって来ないのですよ。夏の暑い環境で、冷暖房を設置し働く環境を整えていけば良いのですが、働いている人はみんな体がもたないと言って辞めています。時給を少し上げたからといって人は集まらないのですよ。みんな使命をもってやっているのですよ。臨時職員の給料を上げるのは良いのですが、その代わり正職員の給料を下げませんかとなるのですよ。人件費の総枠を作り、その中で按分しないといけないのではないですか。先程からお金の話ばかりしていましたが、その考え方から発想を変えないといけない時期ではないですか。

教育費の予算、子どもに対する投資効果は、確かに学力テストもありますが、それ以上に子どもに対する投資効果は目に見えて出てくるものではありません。教育はすぐに花は咲きません。教育を捨てるのは、一番恥ずかしいお金の使い方と私は思います。

遠田町長

石邊委員が言われるのも一つの論理だと思います。私達は、お金がないから教育のお金を切るのではなくて、ALTが、本当に子ども達のための学力向上になっているのかということを検証していただきたいと思っています。それはどういうことかと言うと、ALTの授業を学校に行ってみせていただきました。見に行くと、英語に親しむというか、英語を使って遊んでいると言ったら失礼かもしれませんが、英語を使って子ども達とふれあいをしているようなこと、それが大事なこともかもしれませんが、それよりももっと別の事ができるのではないかと、これによって子ども達の学力が伸びるのかと、これであれば現状くらいで良いのではないかと、もっと新しいことで必要なことがあるなら是非提案をしていただきたいと、教育委員会にも申し上げてきました。

魅力的な学校という面から言うと、いろんな取り組みをされており、南原小学校に一度呼ばれ、荻田町のゴミについて考えたので聞いて欲しいとのことで、4～5年だったと思うのですが、子ども達が、ゴミについてリサイクルをしなければいけない、というようなことを聞き、社会科の教育に力を入れていると校長から聞いた覚えがあります。

このようにして、こんなことがやりたいということをご提案してもらいたい。それが

A L Tなのか、A L Tを増やすことが本当に苧田町の教育に大きく資することなのかと言うと、授業を見てもちょっと違うのではないかと思ひました。もう一つ言わせせてもらおうと、電子黒板というものを導入しました。この前、苧田小学校で公開授業があり、全ての教室を見せてもらって、電子黒板を使った授業は、一つもありませんでした。白い布をかぶせて使われてない。こういうことを見ると、ハードでお金を入れるよりも、それを使う先生達の気持ち、モチベーションだとか、これを使ってもっと効率的な授業を行うだとか、そういう所に力を入れないといけないのかなと感じました。

A L Tが不必要だとかは思ひていませんし、英語に慣れることは大事だと思ひます。ただ、先生達の力量を上げること、こんな話も聞きました。京築地方で先生になりたい教員の倍率が大きく下がったと新聞に載りました。先生というのは大変すばらしい職業だと私達は認識していますが、ブラック企業だとか、時間がなく、いつまでも働かされてとか、若い人から見ると敬遠される職業になり、京築を希望する先生が少なくなると聞きました。

例えば、県の教育委員会で採用されたら、福岡市で働きたい、北九州市で働きたいという方の希望が多いという話を聞いて、この地域の魅力ということから言っても、教育環境を整えたり、先生にとって魅力的な地域になるには何が必要か考えて、エアコンも一つだと思ひますが、そういうことを具体的に何か提案していただければありがたいです。新しい事業を始める上で、他の事業と比べて、子ども達に対する投資は、石邊委員の言われるとおりに大事なことだと思ひています。

石邊委員

教育はその場で結果が出るものではないことを、町長に分かってもらいたい。

今後、日本で仕事がなくなり、若い人達は今から海外で仕事をしないといけなくなる時代が来ると思ひます。その人達に語学力を付け、外国人とのフィーリングを早くから与えてやるのが、大人の仕事であると思ひます。カタカナ英語で辞書を引いて行う英語は役に立たない。聞く耳を持つために、語学は早くから行わないとだめだと思ひています。

遠田町長

そういう意見も分かります。ただ、その前何年間もA L Tとして多くの人を配置してきました。英語の効果として、A L Tではなくて他に効果的な方法が何かあるのではないですかと申し上げています。

石邊委員

他に何がありますか。スペシャルを作っていかなければいけない時代で、教育の質が変わってきており、英語教育に投資することは、いくら投資しても投資しすぎることはないと思ひています。常識になっていると思ひます。

崎平係長

実際に学校現場におられた井上委員、また、子ども達が将来職業につきますので、その観点から塩田委員のご意見をお願いします。

井上委員

私が、第1次荻田町教育改革を行った時に、課長補佐として在籍していました。その時にALTをかなりの人数入れました。入れた時に議員さん達が学校の授業を見に来て、町長さんと同じように、遊んでいるだけで学力に繋がるのかと、それより確かな国語力をつける方が先ではないかと言われました。その時に議員さん達に言ったのですが、日本語も、一番最初は子ども達が遊びながら、まず聞く力を育ててから話す、それから読み書きに、教育というのは繋がっていきます。

英語も同じように、導入期は、まず聞く耳を育てなければならない。日本人が話す言葉と、ネイティブが話す言葉では、やはり違います。ネイティブの人達が話す言葉を聞き取れる耳を育てるのが、9歳くらいまでだそうです。その耳を育てて初めて聞く耳が育ち、それから耳が育てれば話せるようになり、読み書きに移行していくことで、一番最初の時期にネイティブの人達の言葉をしっかりと聞かせるということが、英語教育にとって一番大切なんだという話をその時にいたしました。

その当時、小学校1年生の子ども達がもうかなり大きくなっていますが、6年間、ずっと英語のシャワーを浴び続けてきたことで、聞く力が育ち、中学生で全国学力テストを受けた時に、ヒアリングの能力は他市町に比べて高い。それは、今まで荻田町が長年行ってきた、ALTを使った教育の成果が表れているのではなかろうか。国も今からは、グローバルな子ども達を育てて行かないと、日本だけでは発展していかない。これから世界に出ていくためには、グローバルな人材を育てていかなければいけないということで、学習指導要領を改定して、外国語教育というものを科目として入れてきました。今後さらに、荻田町として、英語が科目として入ってきて、国もその方向で行っていく、大学入試もヒアリングを中心に行っていく時に、今までよりもALTの人数を減らすということは、時代に逆行しているイメージと私は受けます。近隣市町は、国の方針に従ってALTを増やしています。

予算が余りかけられないので、ネイティブだけではなく、帰国子女の方とか、留学経験のある方とかを、限られた予算の中でたくさんの人を雇うように工夫をされているとお聞きしました。

これから、国が目指している方向で荻田町も力を入れ、特に荻田町は、空港があり、港湾があり、外に開かれた町だと思いますので、子ども達が、外国語の力をつけるのは必須ではないか、それを荻田町の特徴にするため、ALTの増員は是非ともお願いしたいと思っています。

また、先生方の学力向上のためには、様々な施策がこれから必要になってくると思います。お金がかかることもあろうかとは思いますが、知恵を出し合いながら、先生

達の資質を引き上げていくということに関しては、教育委員会の中でも討議を重ねていかなければなりません。

せっかく購入していただいた物を十分に活用できていないということは、私もいろんな研究発表会を見に行き感じています。諸外国には随分劣っているなど感じを受けますので、今後はそういう所も補充しながら、学力向上のためなら大きな予算を使っても良いとのことでしたので、いろいろな案を教育委員会としても提案していけたら良いなど考えております。以上です。

塩田委員

昨年度、エアコンの設置ありがとうございました。これで学校環境も改善されるなと思っています。

ALTについて、ALTの人達と接するということが、まず外国人に対する違和感をなくすことだと思います。我々の子ども時代は、通りすがりに外国人に会うと振り返って見ていた。そういうことを払拭することだと思います。英語は慣れで、その機会を出来るだけ多く作ってやること、日本人の英語の上手な、英語検定等で点数の良い人がいくら話しても、日本人が話す英語で、小学生でも、アメリカ・イギリス生まれの子ども達は、ネイティブな英語で、そういうものに恐怖感を持たないことが大事だと思います。

教育というものは、私も40年ほど会社に勤め、その内の半分近く教育関係に従事し、社員が1万人近くいる内に、教育関係に従事している社員が100名ほどおります。従業員のうち、常に200名ほどが製造ラインから抜けて、毎日何かの教育を受けている状況です。教育に成果を求めるのは非常に難しく、出来るものもあれば、そうでないものもある。教育というものは子ども達への未来への投資、その子ども達の成長を願って、性善説に立たないと教育というものは出来ないのかなと思っています。

将来、子ども達が外に出て行った時に、苧田町で育って何が残るのかなと言うと、学校時代に外国人がいっぱい居て、楽しい英会話をやっていたとか、そういう思い出が残るのかなと思っています。

それから、先生の仕事は大変で、私は教育委員になって4年目ですが、先生そのものの仕事が、本来の仕事以外のものをすごくされているのかなと感じます。

お金の集金にしても、銀行振り込みをしたら事故等も減るし、庶務的な仕事を先生ではなく、人を増やして行ってもらわないと、先生の自分達が受ける教育の時間もないだろうと思います。

全体の予算の中で、何かを増やしていくことは難しい。その中で何かを行うためには、何かを減らさないといけない。役場の中の仕事で、今まで何十年も同じ事をやっていて、それが当たり前と思っている仕事があるのではないのでしょうか。

例えば、20～30年も前からパソコンが導入されて、何が効率化され、人がどれだけ削減されたのかということを検証されたことがあるのかなと思っています。

もっと減らす所があるのではないかと、うちの会社でも、最近、紙を減らすことに取

り組んでおり、毎日2万枚ほど使っていると言われ、今は会議で紙を配るのを止めようとしています。会議では、会議室ごとにホワイトボードくらいのディスプレイを置き、パソコンを持参し、同じ画面を見ながら行い、紙を用意する準備とかをものすごく減らしています。

何か当たり前でやっていることが、本当にそれで良いのかということを検証しないといけない。前回の教育委員会の時に、生涯学習課では毎週のように色々な事業がっており、同じ日の午前と午後に行うとか、どれかを止められないのかなと思いました。

また、福祉関係でもやりすぎの面もあるのではないかなと、平等といっても裕福な人と、そうでない人が同じ金額を徴収されるのが良いのかとか、ごみの有料化で、苅田町に住んで良かったことは何ですかと聞かれて、ごみ袋が無料なことと答えたら、寂しい限りで、それを自慢に出来ないなと思います。受益者負担で、取れるところは取らないといけないのでは、それで何千万円か浮くのではないですか。

その他に、以前からあったと思うのですが、企業から広告をつけて無料で行うとか、取れるような工夫はないのかなと思います。

教育というのは、訳の分からない見えにくい投資ですが、将来を期待して宝を育てるつもりで行っていただきたいと思います。

石邊委員

訳の分からない投資ではなく、これほど重要な投資はないと思います。

塩田委員

そうですね。将来を信じて投資するしかないですね。

遠田町長

今、お二人からご意見を伺い、本当によく分かります。

企業の方とも意見交換をする機会があり、その時に、子どもの教育のために北九州市に住むと複数の方から聞き、子どもを進学校に通わせたい、学区制の問題もあると思うのですが、その保護者の方は学力テストの結果も見ていてそう言われるのだと思います。

今まで前町長時代に、十何年間も教育に大きく投資してきたけれど、その投資を否定するのではなく、別の方法にシフトしないといけないのではないかと私は感じます。ALTを否定するのではなく、ALTも必要最小限にして何か別のところで、今度出てきますが、パソコン等タブレットを使った教育だとかにシフトして行くのだと思いますので、そういうものに思い切って投資する。しかし、そういう環境を整えても使われなければ何もならないので、先生達の力量とか、そういう環境を整えてやるためには何をしなければいけないのか、というようなことを教育委員会の皆さんから提案をしていただければ、私どもも真摯に受け止め、検討したいと思っています。

塩田委員

タブレットでの教育は、苧田ではいつ頃から始めるのですか。
佐賀県は進んでいますよね。

吉永課長

白川小学校で、今年、県の委託事業を始めました。

石邊委員

教職員の教育は、教育事務所が行うことで、町が行うことではないのでは。町は、先生達をどう活用するかの問題であって、教職員の教育の費用を苧田町に出させると言っているのではないのですよ。

遠田町長

誤解を招いたらいけないので、私はこういうことを思っています。

行橋北小学校では、ICTを集中して投下したら、子どもの成績がすごく上がり、そこに住む人達も増え、教育というものは素晴らしい、うまくいった先行事例と市長が話していました。その教育の何が素晴らしいのか、タブレットを導入したことが素晴らしいのか、それを使いこなしている先生達が素晴らしいのか、そこを私達は学ばなければいけないのではないかと。

また、飯塚市に行くと、教育と医療にお金をかけており、ここに住んでもらい、福岡にも通勤圏内で働きに行ける。教育医療に力を入れるために、何をしているのかと言うと、資質の高い先生を費用は掛かりますが東京から呼んで来て、そのクラスを担当させたら、そのクラスだけ成績がぐっと上がったと言っていました。そういう事例があると聞くものですから、苧田町もその通りには言いませんが、そういう成功事例、うまくいった事例等を柔軟に受け入れて、苧田町で何か出来るのではないかと、いうことを提案していただければ、そういうことが、教育に対する効果的な投資になるのではないかと。ただ、教育の成果、効果だけを上げる、学力テストの点数だけを求めていると捉えられると違います。

石邊委員

学力テストというものは、ボーダーな部分を上げることで上がるので、個人的の成績が出るわけでも発表もないでしょ。成績の良い人達は、学力テストは気にしていません。

また、先程の北小学校の話ですが、あそこは、大きなマンションが出来たので人口が増えた訳で、苧田町もマンションが増えれば人口は増えると思いますよ。

崎平係長

原田委員からも保護者の立場として、魅力的に感じる町とか、教育に関してご意見がございましたらお願いします。

原田委員

今の英語の件ですが、北九州市は小学校3年生から英語があるのではないかと思います。苅田町は1年生から行っているということは、保護者はちょっとした自慢だった訳です。今、井上委員が言われた、小学校1・2・3年生の耳が一番養われる大切な時期に、英語に携わって欲しいという思いは大変あります。

教育委員の中でも話したことがあると思うのですが、苅田町には外国の方がたくさん住まわれている。新事業の見直しを色々されているというお話だったのですが、住まわれている方との教育に携わってもらいたいということも、新事業になるのではないかと、そういう面でも考えていただくと有難いかなと思いました。

それから、先生達の研究発表を見に行ったことがあるのですが、とても熱心にされており、常に先生方は頑張っていて、努力されている姿が目に出たので、電子黒板の例で言えば、得意でない先生が揃ってしまい、使われていないということは問題かなと思います。どなたか得意な先生がおり、その先生が他の学校を持ち回りで教え合うという場が持てたら良いのかなと思います。

崎平係長

時間の制約等もあり、そろそろ議題についての纏めに入りたいと思います。

石邊委員、塩田委員がそれぞれ言われたように、教育は未来への投資だと、他の委員の発言も根底にはそういう気持ちがあるのだと思います。

予算編成に当たりましては、数値で結果がすぐに表れるような客観的な根拠というのが、どうしても判断基準となってしまう、そちらが重視されてしまうと思います。

数値のみでなく、未来への投資という部分も取り入れていただいて、教育予算を考えていただきたいということで、この案件については纏めさせていただきたいと思います。

遠田町長

今言われたことに関連して、教育委員会からの今年度の新しい事業として、私達がこれは是非今年度やってみたいと思うようなことで、ALTを増やすことは今までの延長線だと思う訳です。ALTを否定する訳ではないですが、3人を6人にすることが教育の効果を大きく上げることなのか、もっと別のことで出来ることがあるのではないですか。先進的な市町で、何かやっていることがあって、これは苅田町で出来るというものを是非提案してもらいたいと思っています。それが今回提案されたものの中には見当たらなかったもので、新規事業が出来なかった。他の部署でも、こんな事業を、具体的にこのように行いたいと新規事業として提案があり、町の政策として有効

と認められれば予算を付けるという仕組みを作りましたので、教育委員会としても、こんな事を行いたいということで、訴えるような資料を作っただけならば、石邊委員からも指摘があったとおり、予算を切るだけではなく、予算を付けるということも含めて柔軟に考えていきますし、教育は本当に大事だと思っています。

石邊委員

新しいことをと言いますが、今まで行ってきたことで必要だと思っていることを求めたものであって、私は図書購入費も大事だと思っていますが、英語教育が大事だというのは、国の方針でもあるし、みんな大事だと感じている。その後退している所を元に戻して欲しいということが、一番喫緊の課題だと思っています。

図書購入費も一緒に、2千万円からの予算があったものが、今は1千万円に削られている。新刊で新しい知識を町民に対して与えることが図書購入費です。

今回は予算がないと言われるから、的を絞ってALTのことを言っている。先進的な事業で、外国人と宿泊する「イングリッシュ・キャンプ」という大事な教育も中止し無くしている。そこまで行っているのに、今回はALTを復元して欲しいと言っています。

町長は、新しい事業と言われますが、そんなに新しい事業はないと思います。役場に目新しいことはありますか。無いと思います。

崎平係長

事務局が、町長に分かってもらえるような提案が出来ていないという私達の力不足で、教育委員さんの思い等が、町長部局に伝わっていないことを申し訳なく思っております。

石邊委員

纏めて言いたいことは、せめてALT一つくらいは理解していただきたいというのが、みんなの思いです。だから、的を絞って、他のことは誰も喋ってないでしょ。新規の提案を持って来いと、そうではないでしょ。以上です。

崎平係長

予算の査定も大詰めになっていると思いますが、教育は未来への投資ということで、教育委員の皆さん方のご意見を含んでいただき、教育予算をよろしくお願ひしたいと思っています。

委員一同

よろしくお願ひします。

崎平係長

その他、予算以外で何かご意見等はありませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

今日は、皆様方のご意見をいただいたということで、第1回総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

一同

ありがとうございました。